

支那にはよい地圖がない、古い廣輿圖などは到底正しいものではない、しかし康熙乾隆二帝の世になると宣教師が支那にやつてきて命を奉じて地圖を測量し北緯十八度から北緯五十五度、東は東經十度(北京を中度とする)から西は西經四十度(イシクル附近)まで、支那本部の外に滿蒙西藏等を測量した地圖が出来た、準噶爾の亂が平ぐや天山北路を測量したので乾隆丙子に至つて(西紀一七五六)右の地圖が出来たので、支那本部は漢字、其他は滿洲文字で註記したものを奉天宮城内に置いた、それが今回金梁氏の手によつて出版されたのであるから、支那を研究する人には一度見て置くべき良圖であるといつてよい、金氏は之を人間未見の珍と賞めてゐる、いかにもさうであらう、但し同時に乾隆十三排銅版中國圖といふ北平故宮博物館の地圖も出版された、この方は全部で百〇四枚、定價も百五十圓といふ、乾隆庚辰に回部が一統されて出来た地圖であるが、地圖としては前者よりも見劣りがするしかし地名はすべて漢文であるから却つて読み易い、この方も珍籍であると信ずる。(藤田)

### ○人文地理學

遠藤金英著 教育研究會發行

定價二圓五十錢

菊版二四一頁の中冊子である、本書は人文地理學の要素意義などを地理學の發達から觀察し自然と人類の關係(海洋洋川氣候)をととき氣候と經濟の關係に入り人類及び人種を論じ人口、聚落國家、各國の政治、土壤と灌溉、生産物、交通等

に及べる講義である、斯學入門の手引としてよからうかと考へるが、まだ語つて詳ならざるの恨が多い。(藤田)

### ○政治地理境界論

フォーセツト著 石田 勇 譯

古今書院發行 一圓二十錢

ザンプトン大學のフォーセツト教授の境界論の譯であつて四六版一三七頁の小冊子である、境界の性質、機能、自然的境界、河川境界、人爲的境界、境界領と緩衝國、要害的境界、境界の發達の八項について説明がしてある分りやすい本である。(藤田)

### ○蕃鄉風物記

小泉鐵著 建設社刊行 定價三圓

臺灣の蕃族調査の爲めに著者が滯留して研究された事柄を集めたもので、主としてアミ族とタイヤル族について記されてゐる、文章も輕快であり著者の目撃せるがまゝに之を記したのであるから、蕃族の實際をしるに此上なき參考資料であると考へる。遠からず臺灣土俗誌も出るといふことである併せて見るべきであらう。(藤田)

### 雜報

### ○滿蒙講習會

日本の生命線たる滿蒙に關する適確なる認識を與へ、且つ其啓發は、惟神の大道に則り、高遠なる理想と、確乎たる信念を基礎とせねばならぬ事を十分に力説せん爲め、京都帝國大學教授青柳博士等の主宰せる教化振興會

は、來八月八日より廿五日迄、京都帝國大學講堂に於て、大學教授、軍部、滿鐵關係者、大新聞記者等滿蒙に關する朝野の權威者五拾有餘名を講師として招聘し、次の科目につき講習會が開催せらるる。

教育宗教(十六時間)、地理(二十八時間)、歴史(十六時間)法制、經濟、軍事(三十四時間)、産業(五十時間)、科外(約三十時間)、全講習を三期に分ち聴講料は一期金六圓で、更に一期を加ふる毎に金貳圓を増す規定で、申込所は京都帝國大學工學部青柳博士氣付である、學校教員、視學、學務委員には汽車往復五割引の特點があり、宿泊料も希望により、會の方で周旋し、非常に經濟的に學習の便宜を計るといふ事である。

兎に角此講習會は、眞に空前の壯舉で、目下の時局に最も緊要なる滿蒙に關する各方面の事項を各専門の講師が奉仕的精神で熱心に講述せらるのであるから、其有益にして最も實際に適切なべきは勿論で、滿蒙に關心を有する人士や、洋々たる前途の望を抱ける青年男女、第二國民教養の大任に當れる諸士は、此好機會を逸せず振て遠近より雲集參會すべきは疑ない。(一)

## ○ランカシヤの困憊

ローザンメイヤー卿の英國綿業對策によれば、元來綿製品は英國全輸出額の五分一以上を占め、他の輸出品にして殆ど之が半額に達するものなく、大戰前其市場は逐年擴大し、ランカシヤ安價綿製品は中華民

國、インド、エジプト等の市場を壟斷してゐた、即ランカシヤ六十萬の綿業職工は其製品で世界市場を獨占した勢であつた。

然るにこの景氣は大戦と共に終焉をつけ、大戦中英國の供給不能により、極東諸國殊にインド及日本に於て各自國綿業の發達めざましく我が供給市場の一部を失ふに至り、且イタリーの産業發展、中歐諸國の新式機械の完備は何れも世界市場に競争しはじめ、過重課税と勞働組合の拘束とは、平和克復後往年の輸出貿易を恢復することを妨げた。

その結果衰頹は急激に來り、極東に於ける銀價低落に因る購買力の減退、中華民國革命、インド國民黨の非買同盟等が一層其勢を助長した。

そこでそのランカシヤの綿製品輸出額は

一九二八年	一四五、〇〇〇、〇〇〇磅
一九二九年	一三五、〇〇〇、〇〇〇磅
一九三〇年	八七、〇〇〇、〇〇〇磅

といふ風に減じてきた、一九三〇年度上三ヶ月間に於て對インド綿布輸出額は七百萬磅に達したが、一九三一年には同じ期間後に百四十七萬磅である、其結果ランカシヤは窮乏、狼狽を極め失業者は五割も増加し、閉鎖工場休止機械等相つき陰慘なる景氣になつた。

バーンレイ及ブラツクバーンは世界中最大綿織都市であるが、打撃をうけた程度は最も甚しかつた、何となればその製

品が東洋向であつたからである、しかし今日ランカシャー人は其最好況時に比し、美服を纏ひ、街路家は更によく維持せられ、そのウキークデーに於ての金銭の消費は少しも低下しないで、毎日四軒の活動寫眞館はいつも満員である。

然し右は外觀のみであつて事實不景氣がこたへてきた、さうして最も強くうける打撃は、職工でなく工場所有者にあつて彼等の資本又は積立金は段々と蕩盡されてきた、公共並に社會施設のため納税せざるべからざる義務は、この失業工場に支配人にあつて、しかもその法律の恩恵はうけられない。

他方紡織職工は國家の寄食者となつて、綿業の基礎たる經營の熟練は徐々にかれてゆく、ブラツクバインは極東向の安價綿布の製造の中心地であるが、數年前迄百三十工場を有したのに内十工場は全くつぶれ、残りの百二十の中七十一工場は目下閉鎖してある、九萬臺の機のうち一萬臺は撤去されて残五萬四千臺は休止だ、バインレイでは十六工場休止し十五工場は設備を解いて織機は屑鐵として賣却されてしまつた。

かうしたことは他面都市の負擔を増加するもので人口はへる上に、課税はふえるのである、かうした報告は幾分割引してきくものであつて、英國の高價な綿布業の方はそれ程弱はつてゐないのであるから、この報告だけでは、いかゞかと思ふけれども、事實上、安價綿製品は英國の現在では、とても引き合はぬやうになつたと見られる。

生産費低減の方法として第一に一職工に從來の四臺に代ふ

るに八臺を擔當せしめる案がある、さうすると生産費は二割五分を減じうる。第二に印度に於ける英國品の排斥を停止し英國品輸入税の減額をするやうに實行することである。いづれにしても國民が眞面目になつて、生活費を切りつめなければならぬ、この事はたゞ今日の英國の問題ではなく、日本人々も自分等の生活費を儉約することに思を致さなければならぬと考へられる。

## ○靴王バチャの事業

チエツコスロバキヤのズリン市長であつて、そこに靴工場を持つてゐるバチャは實に世界での企業家である、自動車王フォードと並び稱せられ一萬七千五百人の職工を有し一日の生産能力が十三萬足に上り、一人口二萬二千の小さいズリンの町は全くこの靴で出来た。首府プラーグから汽車で七八時間の所にある片田舎であるが一八七六年その町はづれの靴屋で生れたトーマスバチャは大に精を出して父の業に従ひ一九〇四年には工場らしくなつた。

アメリカへ渡つて靴職工となつて研究して歸つて大戦前に二千人の職工を擁したが、大戦中一切の組織を軍隊用靴製造に改め一九一七年に職工四千人となり一日一萬足を作りはじめた、一九二二年になると約十三圓の靴が一九二八年に三圓三十錢でうれる程に合理的に成功した、一億クラウンの會社であるが實は個人持てその支店は國內に一、九五〇、中央、諸國、英、米等を合せて百五十餘に達する、彼は職工の自治制と企業の合理化とを企て全企業を幾つかの部門に分ち、各

部門を獨立にし、その成績に従つて利益を分配する、一日九時間、一週五日制を實行してゐるので職工は満足し労働爭議は起り得ない程に全職工は樂んでゐる、工場三十二棟が同じ型で奥行八十米間口十二米、設備がやすく、しかも各工場同型だから電気機械モーター其他の機械は一齊に同じ型のものを用ふることが出来る、各棟の工場は機械と型と数とが同じ結果職工の数まで同様となつて、生産の比較が出来やすい各工場材料の節約も出来るといふわけである、注文を早くすること六ヶ月ごとに事業計畫を樹て、決して賣れない餘分をつくらぬこと、製品検査は自身でやるが、不合格は一割二割安でうること、常に新しい型をつくり顧客を喜ばし材料買入には細心の注意して、可成生産費を安くすること等合理化の妙を發揮したといはれてゐる。

○支那洪水の損害、其他

昨昭和五年度の洪水は過去六十年間に於て最も慘害の甚敷ものにて、十省以上浸水し避難者数百万を算した、被害の最大なりしは江蘇浙江湖南湖北江西安徽河南及山東の諸省にしてその損害左の如し。

省名	浸水面積(千畝)	避難者數(千人)	損害高(百萬元)
湖北	二七、五二三	二、一二五	一〇〇〇
安徽	一三、九五〇	二、一五五	四〇〇
江蘇	六一、四一三	三、六二七	一〇〇〇
河南	一三、九五〇	一、一〇〇	一〇〇〇
湖南	三四、六九五	一、五八六	六〇〇

江西	一四、二四八	一、〇三五
山東	三〇、一三五	一、五五一
浙江	一五、七三六	九三二
計	一一一、六六八	一四、〇九一
		四五〇

一畝は日本の約九十坪に當る。

國民政府中央統計局の調査によると浸水地面積は二億五千五百萬畝で右の中國銀行の調査よりも多い、米九十億斤(全支那平作の三割六分)、棉花一億四千二百萬斤(全支那平作の二割五分)、粟及高粱十四億斤(全支那平作の二割九分)、米一斤を四仙棉花一斤を四十仙粟及高粱を一斤三仙とすれば、全損失高は四億五千七百萬元に達する、中國銀行の損失高と略一致する、猶九月十八日滿洲事變以來東北四省の戦亂はあらゆる商業を杜絶し天津上海の金融市場を逼迫した外に、日貨抵制のため日本産貨物は各地に於て封存された、この損害は目下正確なる數字を得ること能はず。猶又土匪による損害は江西省を中心として湖南、湖北に擴大した、人民のうけた損害と討伐軍事費六千萬元を合計して二億元を下らぬ損失である。

○地球學岡山支部近況

○第四十九回例会 昭和六年二月一日朝來大雨のため流會。  
 ○第五十回例会 四月十九日片上伊部地方旅行、其日程左の如し。

午前七時四十五分 岡山發。

午前八時二十八分 和氣着片上線に乗換へ。  
午前九時〇八分 片上着。

片上灣及び其附近地形の考察。

品川耐火煉瓦製造會社參觀。

伊部木村氏の陶器工場參觀。

香登臥龍松及其附近果樹栽培觀察、晝食。

吉井川の沿岸を溯りつゝ視察。

萬富驛北方東大寺瓦の窯跡觀察。

午後五時十五分發汽車にて歸岡解散。

○第五十一回例會 五月二十四日午前九時より岡山二中に開會次の講演ありたり來會者十八名講師と食卓を共にして快談、質疑賑はしく午後三時解散。

1. 岡山縣の地質概要 岡山縣技師 山本徳三郎君

2. グリフイスターラー人種進化の移住帶説

岡中 北田 茂君

○第五十二回例會 七月五日午前九時より清心高女に開會次の講演ありたり。

1. 日本の地體構造と地形區 二中 坂上長十郎君

2. 氣候の型式に就て 一商 浦上 宗衛君

右終はりて後、中國第一の白館の譽高き此清心高女の校舎設備より寄宿會の狀況を參觀したり來會者二十二名。

○第五十三回例會 十一月十五日廣島縣帝釋地方へ旅行、其日程左の如し。

午前五時岡山發、備中神代を経て。

午前八時二十三分東城着、前田、田中兩君に迎へられ東城川の既穴、侵蝕、地層等の指導を受け。

午前十時自動車にて帝釋に向ふ、犬瀬にて下車、乘船して貯水池を堰堤まで下り兩岸の紅葉と岩石の美を賞し再び犬瀬に歸り上流に向ひ唯橋より船を棄て、徒歩里餘兩岸の絶壁、洞穴、雄橋等の景を眺めつゝ帝釋に着、午後八時東城歸着汽車にて備中神代を経て午後十一時十二分岡山歸着解散す、同行者十二名なりき。

○第五十四回例會 十二月六日午前九時一商に開會次の研究發表ありたり。

1. 文檢問題の研究 市商 井上 倫衛君

河内 守分壽美次君

庄 泉水富太郎君

2. 秋吉臺地と我阿哲臺地との比較研究

二中 仲原龍次郎君

何れも論議に花を咲かせ頗る盛會なりき來會者二十五名。

○第五十五回例會 昭和七年一月二十四日午前九時より一商に開會次の研究發表ありたり。

1. 滿洲の氣候 關中 水野 千里君

2. 文檢受験談 落合高女 三宅 東男君

來會者十五名右終りて岡山師範の郷土室を參觀して得る所多大なりき。

○第五十六回例会 五月一日午前九時より一商に開會左記研究發表ありたり。

1. 河内國堅上村時地見學談

一商 浦上 宗衛君

2. 同上

六高 宗田 克己君

3. 英國の經濟狀態に就て

西浦 守分壽美次君

4. 文檢受験に就て

岡高女 有木 徹夫君

右につき質疑應答賑はしく地圖、寫眞展覽ありたり、來會者十五名。

○地理歴史夏季講習會

主催者 熊本地歴研究會

場所 熊本縣師範學校

期日 自七月二十二日至二十六日 五日間

○京都帝國大學講演會

京都帝國大學に於て毎歲夏期開催する講演會は本年も亦八月一日より第二十三回目の會を開き、諸種の講演があるが其の内地質鐵物に關するものは次の如くである。

造岩鐵物學

八月一日―四日 講師 君塚康治郎

岩石學 八月五日―九日 講師 春本篤夫

八月十日には遠足がある。猶ほ本年は特に滿蒙講座を催し十教授が講演し且つ五教授の科外講演もある。地學に關する講演は次の如くである。

但し最後の日は阿蘇火山實地踏査の豫定。  
講師 地理科 東京高等師範學校教授  
東京文理科大學講師  
文學士 内田 寬 一氏

歴史科 第五高等學校教授  
文學士 鈴木 登氏

尙ほ學習及演習指導としては前二講師の外下間理學士外數名參加

會費 金二圓  
申込 定員二百名、七月十五日までに熊本市黒髮小學校内熊本地歴研究會宛に申込の事。

滿蒙の農業及農業植民 教授 橋本傳左衛門

滿蒙の森林及林業 同 市河三祿

滿蒙の自然地理 同 中村新太郎

滿洲の鐵物 同 松原 厚

滿洲と鐵道 同 瀧山 與

この講座は本欄前頁に掲げた教化振興會の滿蒙講座とは別のものである。講演會に關する詳細は六月三日官報廣告に掲げてある。